

2012年7月13日

2012年度第2回研究会

#### 症例発表

1. 再発を繰り返す膀胱結石が完治した症例

エンゼルペットクリニック 名越譲治

10才のシーズー、メス、8.8kgBW、ストラバイト膀胱結石に罹患し、尿酸性化剤や食事療法に反応せず、この1年で3回の手術を繰り返した。最後の手術から1ヶ月後に膀胱結石が再発し、来院した。ホメオパシー、ホモトキシコロジー、漢方薬等で治療し、3か月後に結石が消失し、以来再発していない。

2. 5時間もの難産にホメオパシーが効果があった症例

エンゼルペットクリニック 名越譲治

2才のロングチワワ、2.6kgBW、事前の検査で4頭の胎児を確認。3頭の胎児が次々と生まれてから5時間たつのに最後の1頭が生まれず。陣痛は消失。エコー検査で子宮の内奥に生存しているのを確認。ホメオパシー複合製剤(フランス、Boiron社)を注射後30分で無事出産した。

3. 高度房室ブロックにより失神を呈した猫の症例

福岡夜間救急動物病院 井本暁

4. 第3房室ブロックを呈した犬の一例

福岡夜間救急動物病院 井本暁

イヌやネコの房室ブロックには内科療法としては一般にイソプロテレノールが使用されるが、恒久的な治療法としてはペースメーカーの埋め込みが推奨されている。しかし、経費が掛かり、高齢動物には使用されないことが多い。失神を主な症状とする動物に対し、どのようなホメオパシーが適応されるかが今後の検討課題となる。

次回の研究会は9月7日に開催予定